

**2017年6月期
決算説明会資料**

リファインバース株式会社
(東証マザーズ：6531)



2017年8月

新拠点の立上げ、積極的な研究開発投資による新規事業開始など上場時に掲げた成長戦略を着実に具現化。また当初見込みよりも前倒しで発生した先行費用の大幅な増額がありながらも過去最高益を更新。

①過去最高益

- ✓ 既存事業が着実に成長し4期連続の増収増益・過去最高益を達成
- ✓ 新工場建設や新規事業に関する研究開発費などの先行費用が大幅増
- ✓ 組織再編に伴う税効果もあり純利益は大幅増

②新拠点完成

- ✓ 千葉県富津市に新拠点“リファインバース イノベーションセンター”が完成
- ✓ カーペットリサイクルの処理能力を増強し既存事業の成長を促進
- ✓ 研究開発機能を強化し持続的成長のための中核拠点として活用

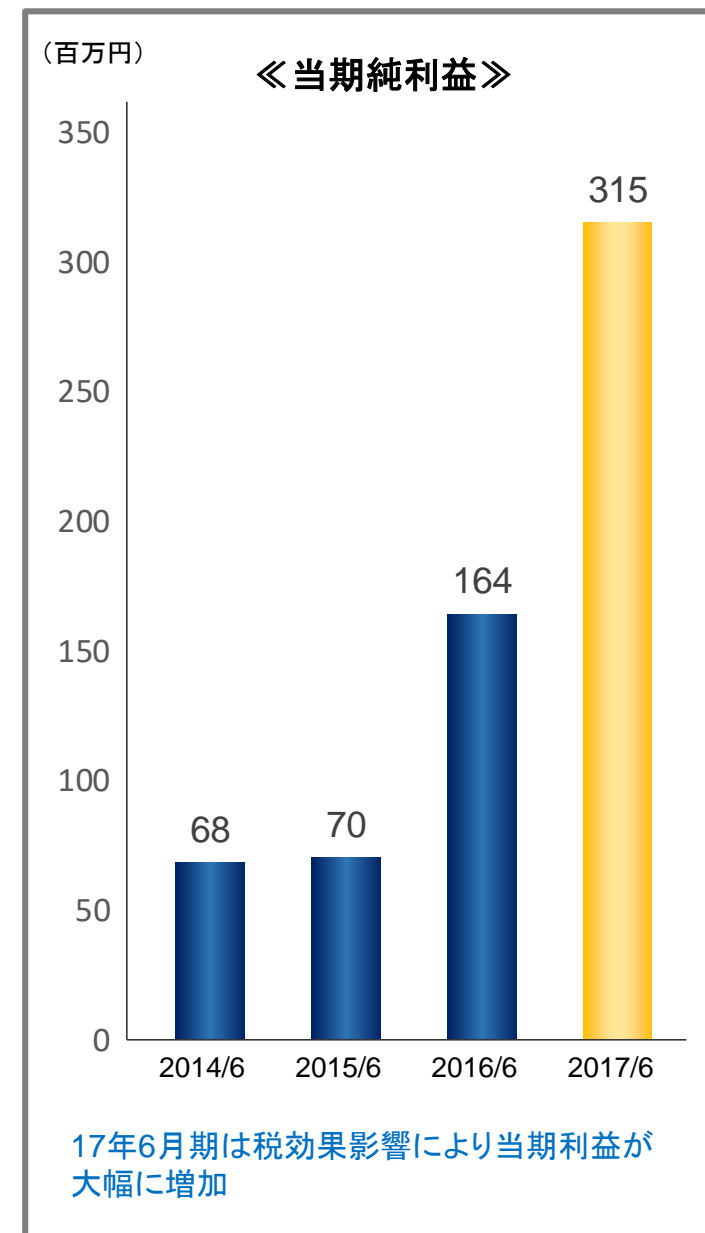
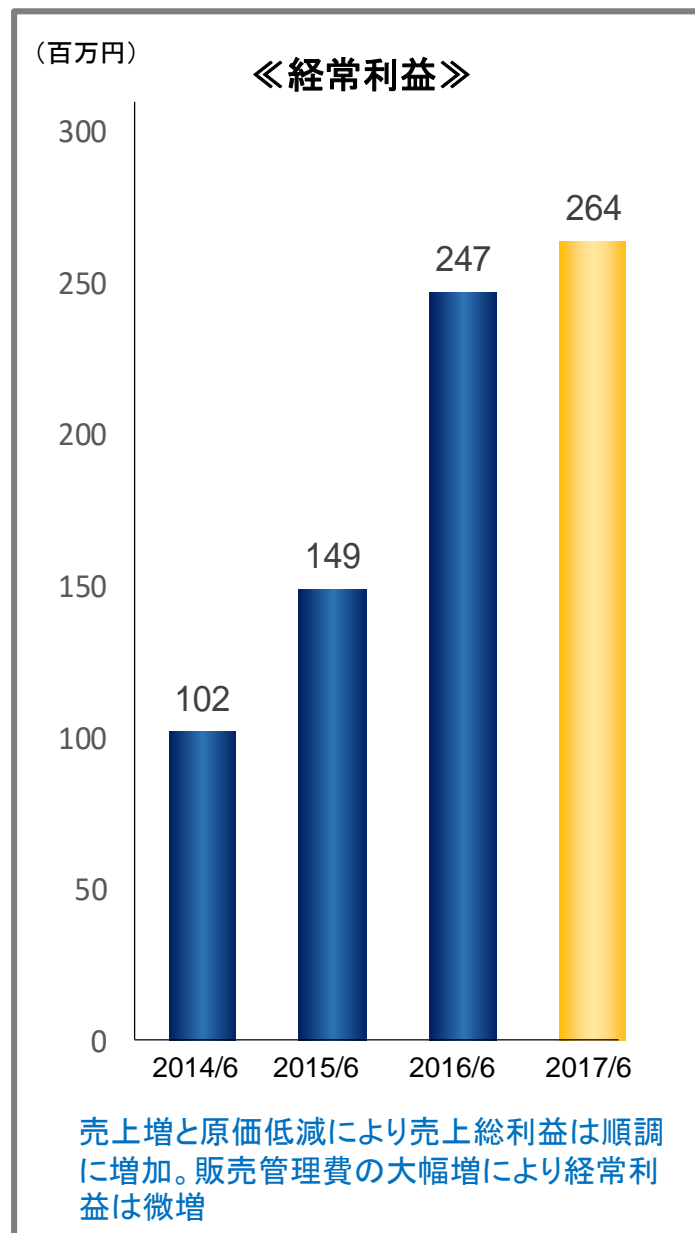
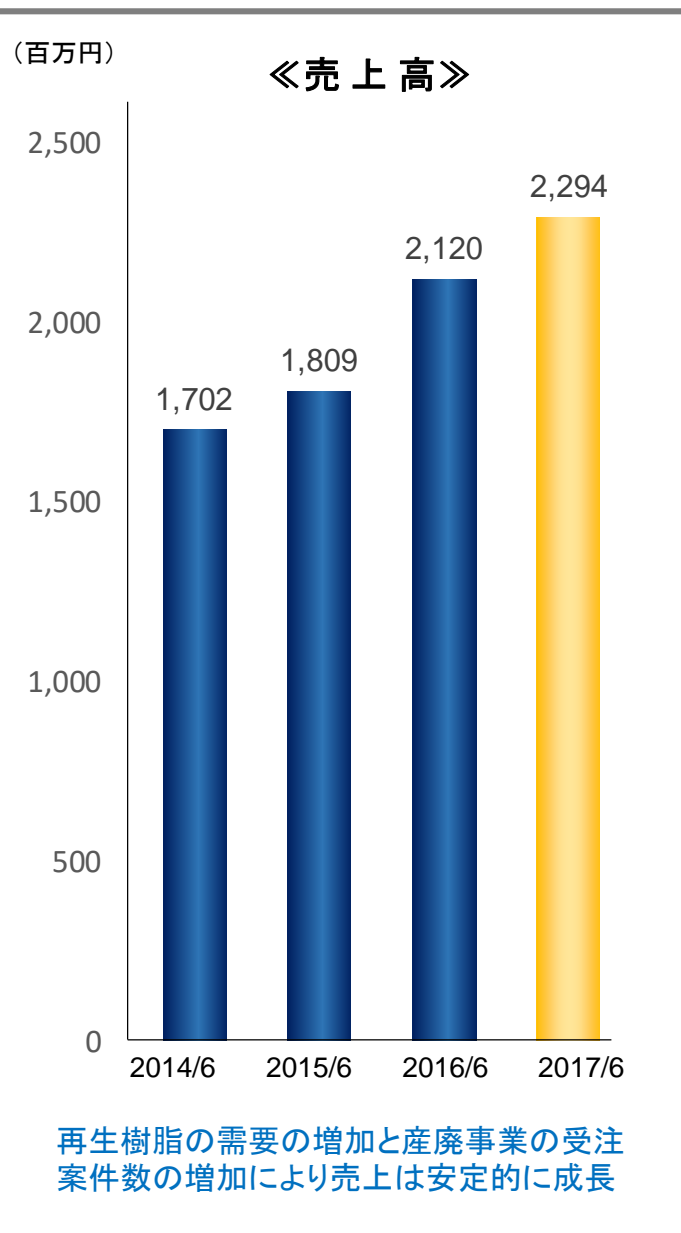
③新規事業開始

- ✓ 廃棄物を原料とした製鋼副資材の製造事業に参入し17年9月より本格稼働
- ✓ 自動車エアバッグのリサイクル事業への参入が決定。
- ✓ 事業譲渡により参入した廃漁網を原料としたリサイクルナイロン事業が収益化

再生樹脂事業・産廃処理事業の両事業の売上が順調に成長。
研究開発費や新規事業への先行費用が増加し営業利益微増ながらも過去最高益を更新。

| (単位:百万円) | 2016年6月期 | | 2017年6月期 | | | | |
|----------|----------|--------|----------|--------|--------|-----|-------------------------------|
| | 構成比 | | 構成比 | 前期比 | 増減額 | | |
| 売上高 | 2,120 | 100.0% | 2,294 | 100.0% | 108.2% | 174 | ✓ 再生樹脂事業の受注増及び産廃処理受託件数増により売上増 |
| 売上総利益 | 661 | 31.2% | 737 | 32.1% | 111.5% | 76 | ✓ 産廃事業はリノベ案件での受注増が継続。 |
| 販売管理費 | 394 | 18.6% | 457 | 19.9% | 115.9% | 63 | ✓ 売上増に伴い粗利益も着実に増加 |
| 営業利益 | 267 | 12.6% | 280 | 12.2% | 105.0% | 13 | ✓ 研究開発費や新規事業立上げに伴う先行費用が増加 |
| 経常利益 | 247 | 11.7% | 264 | 11.5% | 106.9% | 17 | |
| 当期純利益 | 164 | 7.7% | 315 | 13.7% | 191.7% | 151 | ✓ 税効果影響により大幅増 |

業績は順調に成長しており4期連続の増収増益・過去最高益を達成



再生樹脂・産廃処理事業ともに既存事業は順調に成長。研究開発費などの増加がありながらも再生樹脂事業が利益増を牽引。来期以降は既存事業の成長に加えて新規事業の収益貢献が期待できる体制を構築。

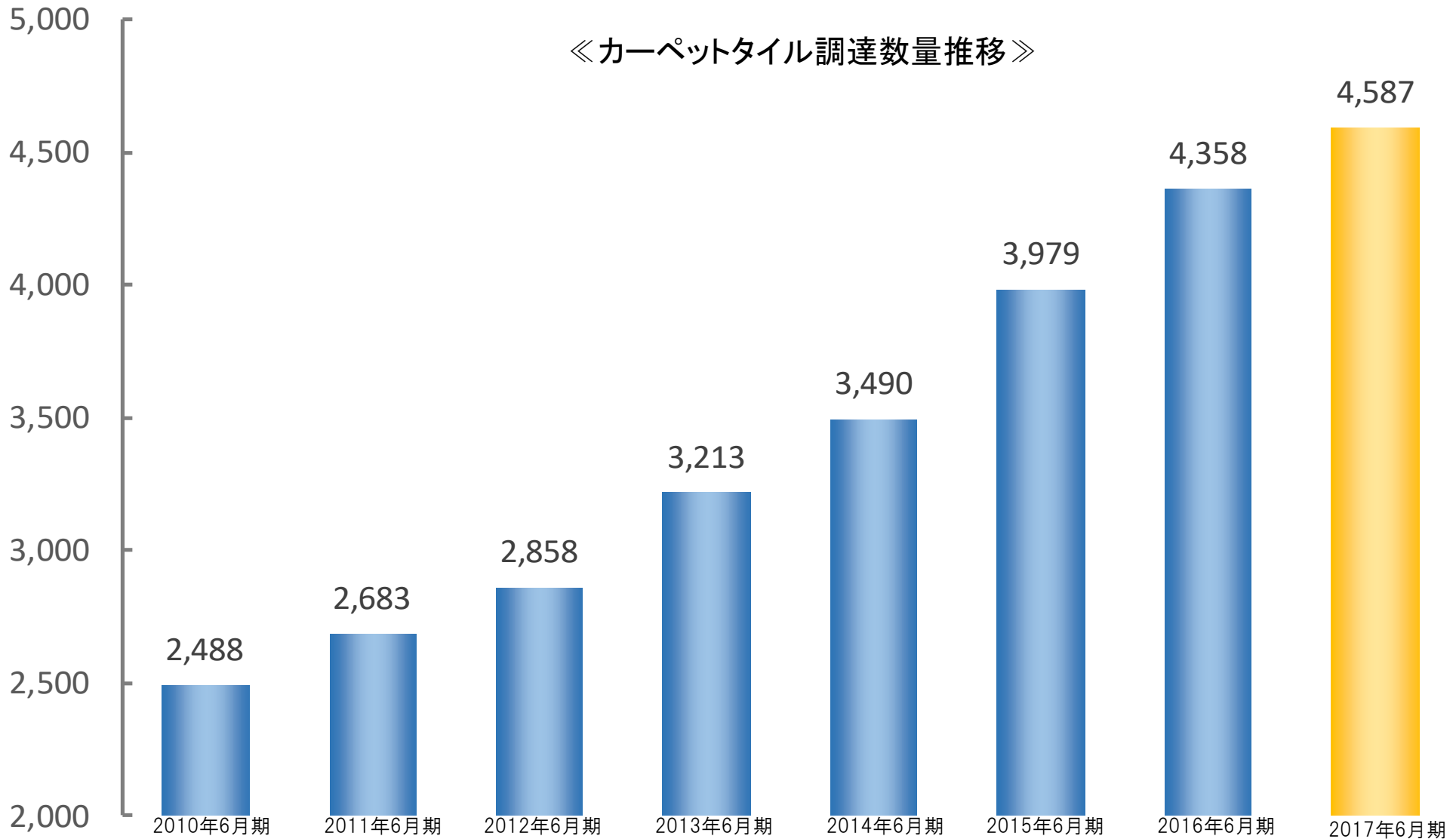
| (単位:百万円) | 2016年6月期 | | 2017年6月期 | | 増減額 | | |
|---------------|----------|--------|----------|--------|--------|-----|----------------------------------|
| | 構成比 | | 構成比 | 前期比 | | | |
| 再生樹脂事業 | | | | | | | |
| 売上高 | 774 | 100.0% | 856 | 100.0% | 110.6% | 82 | ✓ カーペット調達・樹脂販売増 ✓ 再生ナイロン売上新規増 |
| 売上総利益 | 274 | 35.4% | 334 | 39.0% | 121.9% | 60 | ✓ 売上増・稼働率UPによる原価低減 |
| セグメント営業利益 | 120 | 15.5% | 145 | 16.9% | 120.8% | 25 | ✓ 研究開発費等の先行費用増加 |
| 産廃処理事業 | | | | | | | |
| 売上高 | 1,375 | 100.0% | 1,479 | 100.0% | 107.6% | 104 | ✓ 産廃処理受託増、解体工事受注の大幅増 |
| 売上総利益 | 386 | 28.1% | 402 | 27.2% | 104.1% | 16 | ✓ 外注工事費の増加 |
| セグメント営業利益 | 268 | 19.5% | 278 | 18.8% | 103.7% | 10 | |
| 全社共通 | | | | | | | |
| 全社費用 | 121 | | 143 | | 118.2% | 22 | ✓ 上場関連費用の増加 |

※17年6月期よりセグメント会計処理方法を変更。16年6月期数値は17年6月期処理方法にて算定。

カーペットタイル調達量推移

カーペットタイルの調達量は首都圏からの回収が順調に増加しており、今後の関西・東海エリアでの回収により更なる増加が見込まれる

(単位:千㎡)

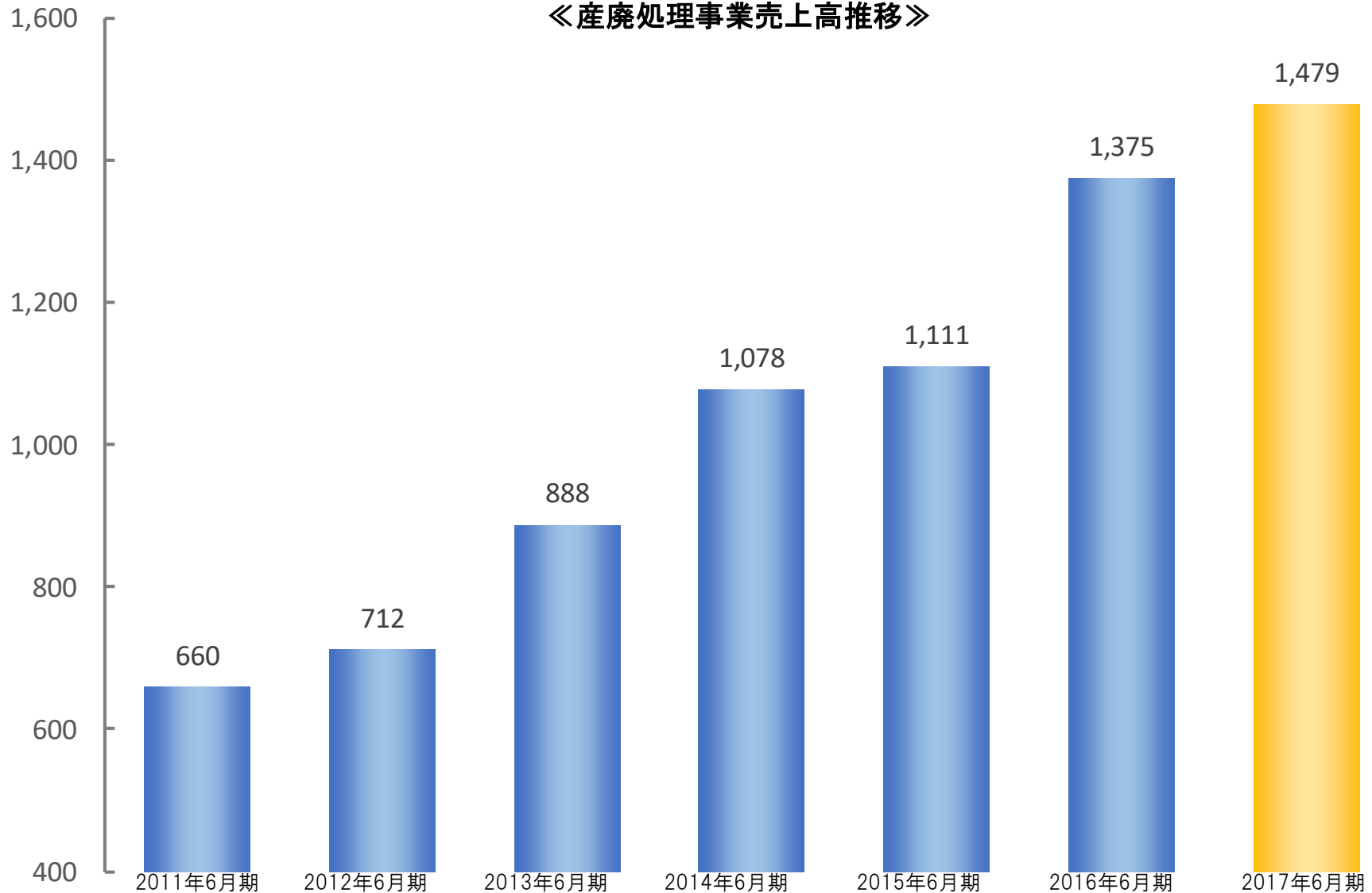


※1平米5Kgとして換算

産業廃棄物処理事業

マンションリフォーム・リノベーション案件の受託件数が増加し売上高は堅調に推移。上場による信用力向上も影響し大手企業との新規取引も増加しており、今後も持続的な成長が見込まれる。

(単位:百万円)



連結貸借対照表

新工場建設への設備投資により固定資産・負債が大幅に増加。
当期利益の増加により自己資本比率は大幅に改善し財務健全性は改善傾向。

| (単位:百万円) | 2016年6月末 | 2017年6月末 | 増減額 | |
|----------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 流動資産 | 1,120 | 1,250 | 130 | ✓ 未収還付税等 |
| 現金及び預金 | 739 | 685 | -54 | |
| 受取手形及び売掛金 | 296 | 289 | -7 | |
| 固定資産 | 371 | 1,447 | 1,076 | |
| 有形固定資産 | 322 | 1,267 | 945 | ✓ 新工場関係固定資産増加 |
| 投資その他の資産 | 48 | 177 | 129 | ✓ 土地賃貸保証金 |
| 資産合計 | 1,492 | 2,736 | 1,244 | |
| 流動負債 | 623 | 1,358 | 735 | |
| 支払手形及び買掛金 | 37 | 39 | 2 | |
| 短期借入金 | 6 | 647 | 641 | ✓ 設備資金ブリッジ |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 313 | 194 | -119 | |
| その他の流動負債 | 266 | 476 | 210 | ✓ 未払設備資金 |
| 固定負債 | 579 | 563 | -16 | |
| 長期借入金 | 533 | 338 | -195 | ✓ 既存借入減少 |
| その他の固定負債 | 46 | 224 | 178 | ✓ 資産除去債務計上 |
| 負債合計 | 1,203 | 1,921 | 718 | |
| 純資産 | 288 | 814 | 526 | ✓ 増資及び純利益による増加 |
| 負債純資産合計 | 1,492 | 2,736 | 1,244 | |

新工場建設の設備投資に関連する支出が増加。設備投資資金は銀行借入(長期低利融資)にて調達。

| | 2016年6月期 | 2017年6月期 | |
|-------------------------|-------------|-------------|--------------------|
| 税金等調整前当期純利益 | 245 | 240 | |
| 減価償却費 | 53 | 60 | |
| 減損損失 | 3 | - | |
| 売上債権の増減額 | -59 | 6 | |
| 棚卸資産の増減額 | -8 | -62 | |
| 法人税等の支払額 | -32 | -99 | ✓ 法人税中間納付分(還付予定) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 192 | 130 | |
| 有形固定資産の取得による支出 | -73 | -603 | ✓ 富津新工場への設備投資 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 4 | 3 | |
| 定期預金の預入による支出 | -22 | -24 | |
| 定期預金の払戻による収入 | 20 | 130 | |
| 保証金の差入による支出 | 0 | -62 | |
| 繰延資産の取得による支出 | - | -37 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | -71 | -591 | |
| 短期借入金の純増減額 | 2 | 641 | ✓ 設備資金ブリッジ(長期借換前提) |
| 長期借入れによる収入 | 170 | - | |
| 長期借入金の返済による支出 | -347 | -313 | ✓ 既存借入返済 |
| 株式の発行による収入 | - | 209 | |
| リース債務の返済による支出 | -14 | -20 | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | -190 | 516 | |
| 現金及び現金同等物の増減額 | -70 | 55 | |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 615 | 670 | |

富津新工場は予定通り竣工し18年6月期の収益増に貢献できる状況。

《 外観写真 》



《 再資源化装置 》



《 稼働状況 》

■ カーペットリサイクル設備

- ✓ 17年7月に設置工事は完了し試運転中。
- ✓ 9月より本格稼働、量産開始予定。
- ✓ 従来設備から処理能力を増強し再生樹脂の生産キャパ拡大。
- ✓ 設備改良したことにより生産性が向上し原価低減の見込み。

■ 製鋼副資材製造設備

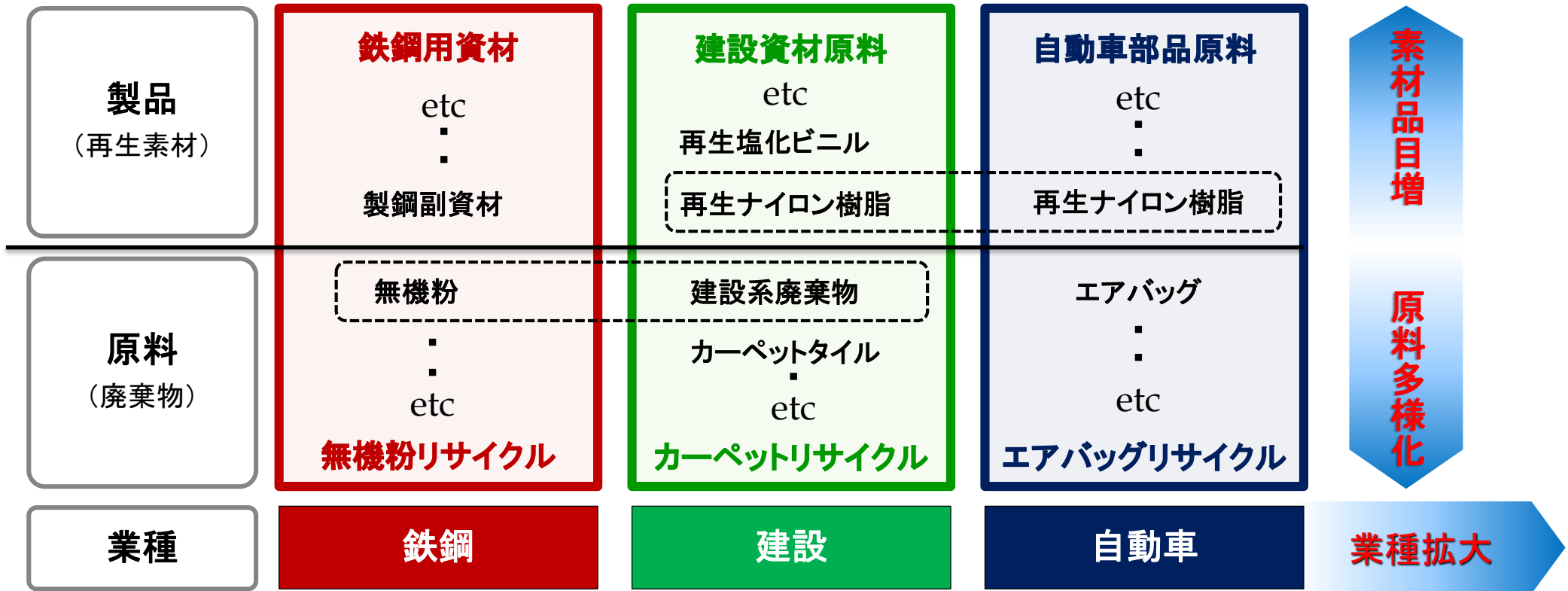
- ✓ 17年7月に設置工事は完了し試運転中。
- ✓ 9月より本格稼働し量産試作、顧客評価の予定。
- ✓ 10月より量産・販売開始予定。
- ✓ 事業の成長を見越して原料となる廃棄物の適用範囲を広げるための生産条件の見極めも実行中。

事業ポートフォリオの拡充

積極的な成長投資により主要産業に「足場」を構築。

市場規模の大きい産業での事業展開により“伸びしろ”を広げ大きな成長を目指す。

《“技術”“素材”“市場”の関連性がある領域に展開》



原料(廃棄物)・製品(素材)・業種の3方向へ展開することで持続的成長が可能な事業構造を強化していく。

2018年6月期の主要テーマ

既存事業での安定的な収益を、将来の成長に向けた新たな事業に積極的に投資することは今後も継続。
新規事業の立上げだけでなく新たな事業の種となる研究開発への投資を継続することで事業機会を創り出す。

①業績

- ✓ 既存事業は再生樹脂事業・産廃事業ともに順調な成長見込み
- ✓ 新規事業の製鋼副資材事業の開始による利益増への貢献
- ✓ 研究開発費、人材強化に伴う人件費の増加、工場移転に伴う一時的費用などにより販売管理費は大幅に増加

②新規事業

- ✓ 製鋼副資材事業は17年10月より本格生産予定
- ✓ エアバッグリサイクル事業の量産プラントの立上げ
- ✓ カーペットリサイクル事業の地方(関西・東海)展開による規模の拡大

③研究開発

- ✓ 製鋼副資材の原料となる素材適用範囲のための研究は継続
- ✓ 高付加価値素材の再資源化技術の研究開発は積極的に実行
- ✓ 研究開発能力の向上のためにリソース(人材・設備)を投入・強化

18年6月期は新規事業の製鋼副資材製造事業や事業エリアの拡大による成長を見込む

| (単位:百万円) | 2017年6月期 | | 2018年6月期 | | |
|----------|----------|--------|----------|--------|-----|
| | | 構成比 | | 前期比 | 増減額 |
| 売上高 | 2,294 | 100.0% | 2,650 | 100.0% | 356 |
| 営業利益 | 280 | 12.2% | 369 | 131.9% | 89 |
| 経常利益 | 264 | 11.5% | 324 | 122.7% | 60 |
| 当期純利益 | 315 | 13.7% | 266 | 84.3% | -49 |

再生樹脂製造販売事業

- ✓ カーペット再生は関西・東海エリアからの回収により原料調達量が増加する見込み
- ✓ 製鋼副資材の製造・販売による利益増
- ✓ 富津新工場の稼働は9月からとなるため実質10か月分の生産・販売見込み

産業廃棄物処理事業

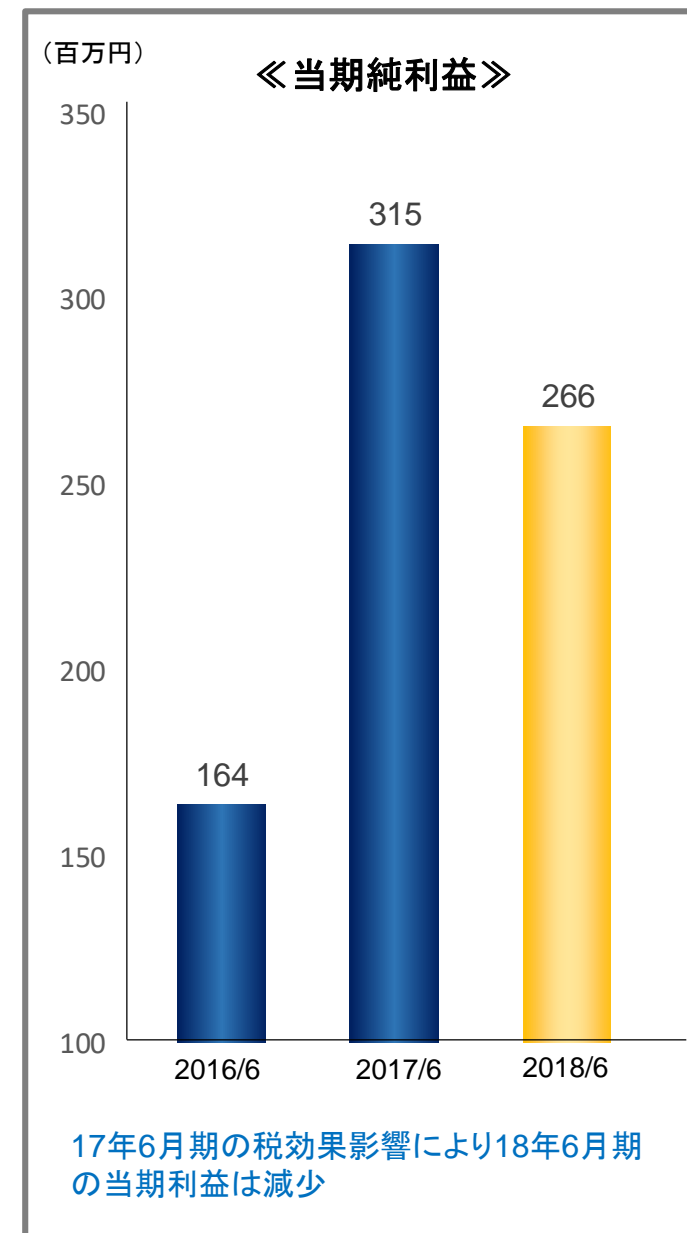
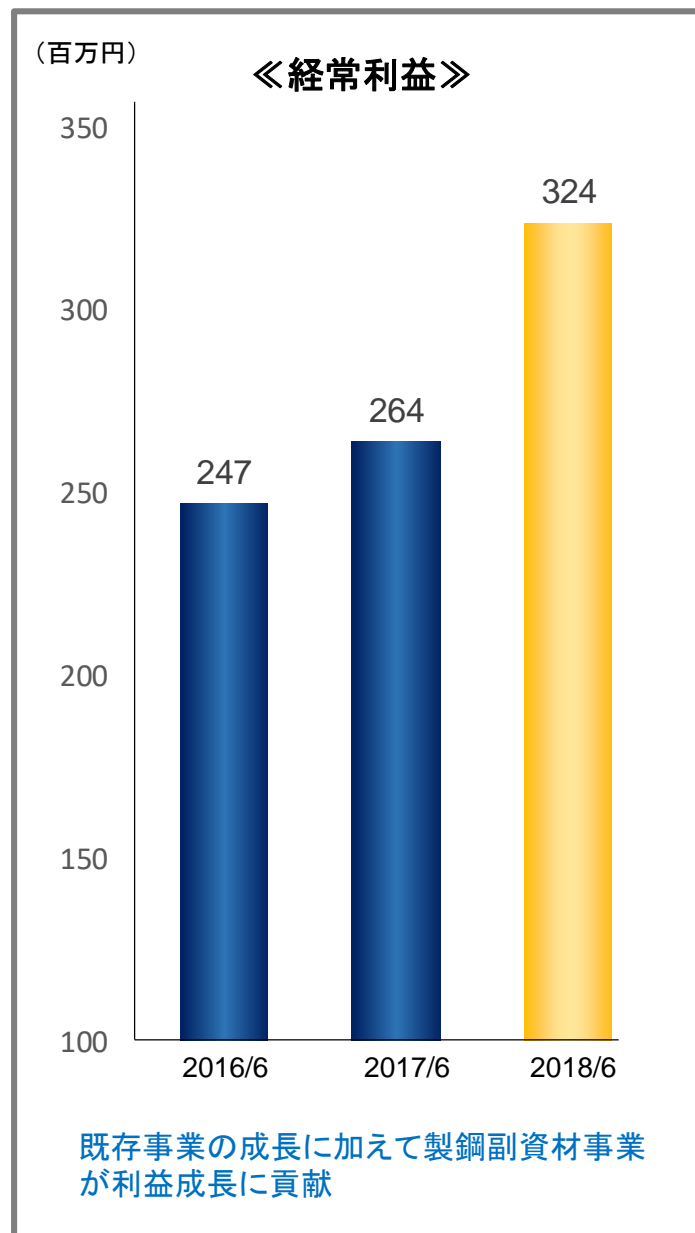
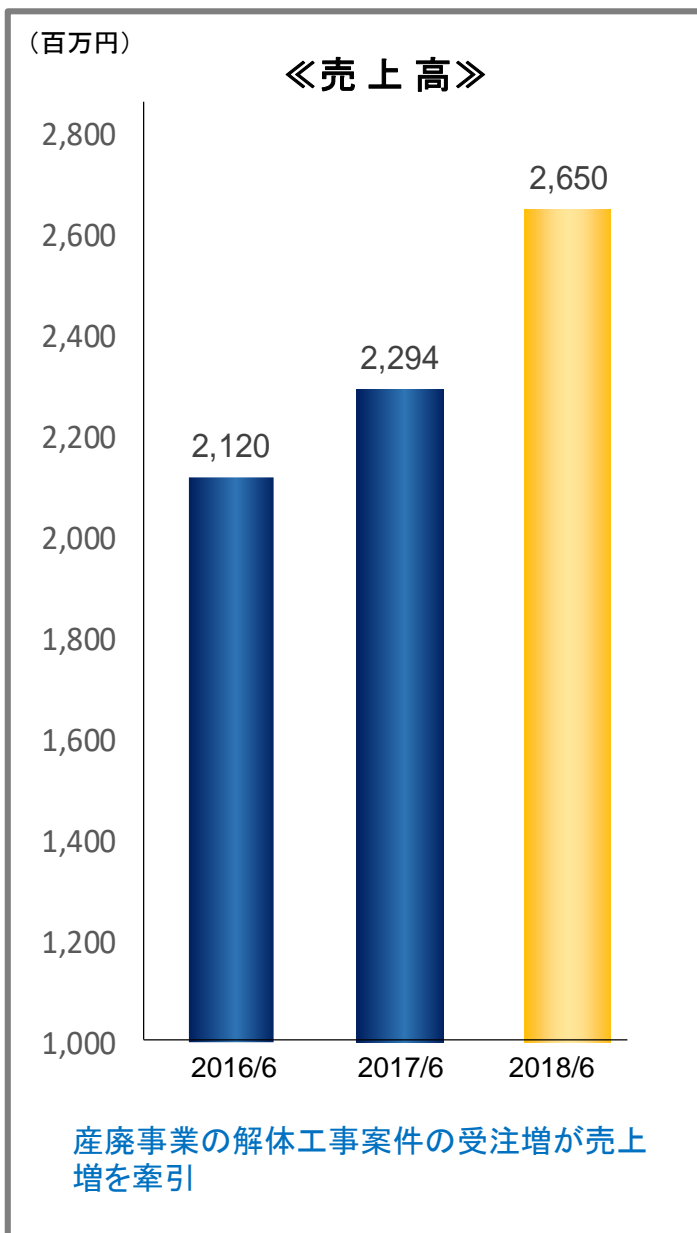
- ✓ マンション等のリフォーム・リノベーション案件の受注増による成長を見込む
- ✓ 内装解体工事の施工能力の増強による解体工事受託件数の増加
- ✓ 新規取引先(大手企業)との取引の段階的拡大

全社共通費用

- ✓ 新規素材の再資源化技術開発は積極的に推進予定。
- ✓ 人員増に伴う人件費の増加及び事務所増床による費用増。
- ✓ 工場移転関連費用やその他非継続的費用などが発生。

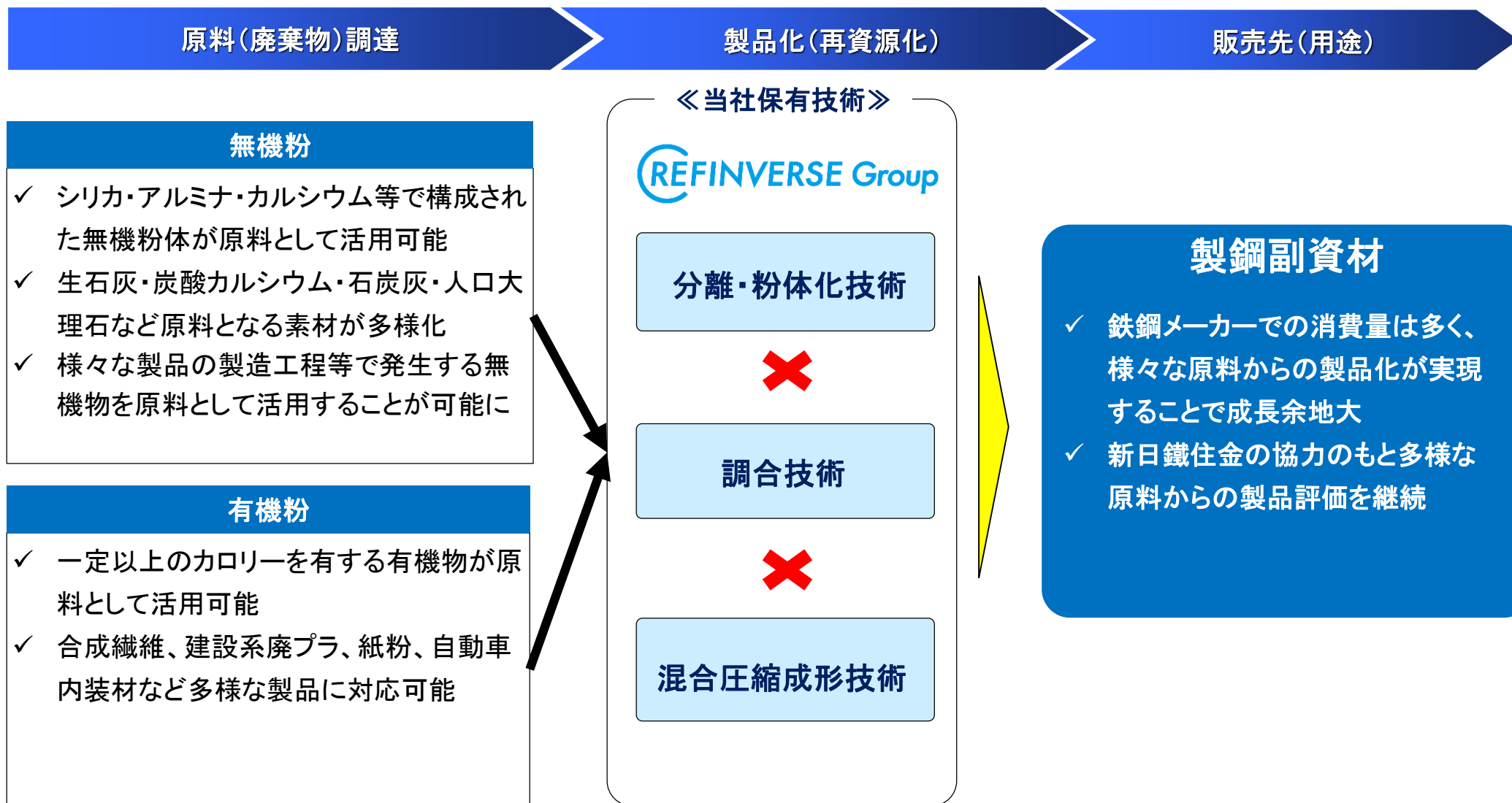
前提条件

18年6月期は新規事業の製鋼副資材製造事業や事業エリアの拡大により成長を見込む



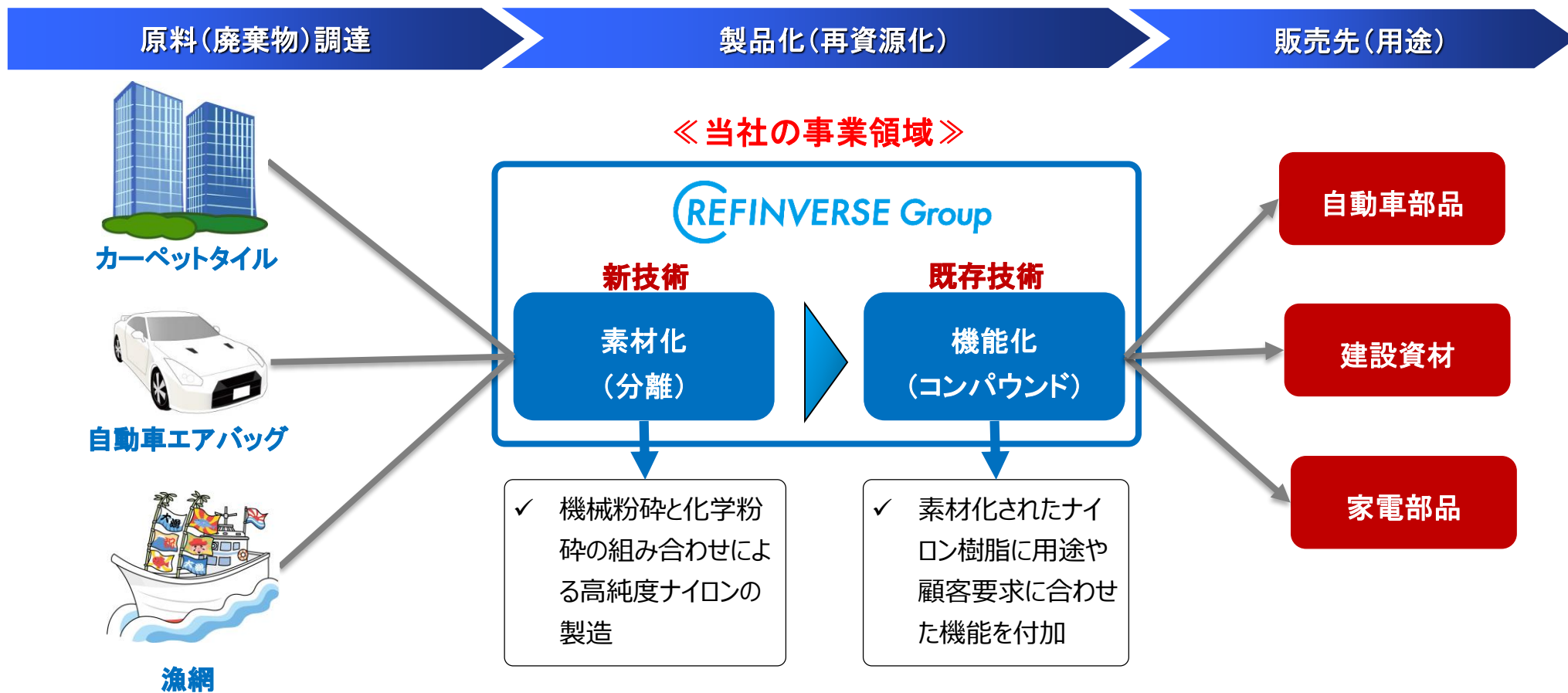
設備設置は完了し9月から本格生産、10月より販売開始の予定。

製鋼副資材の原料となる廃棄物の素材化の範囲を拡げる開発を進めており莫大な需要への対応を図る



ナイロンリサイクル事業は今後の成長の柱として期待できる高いポテンシャルを有する事業。

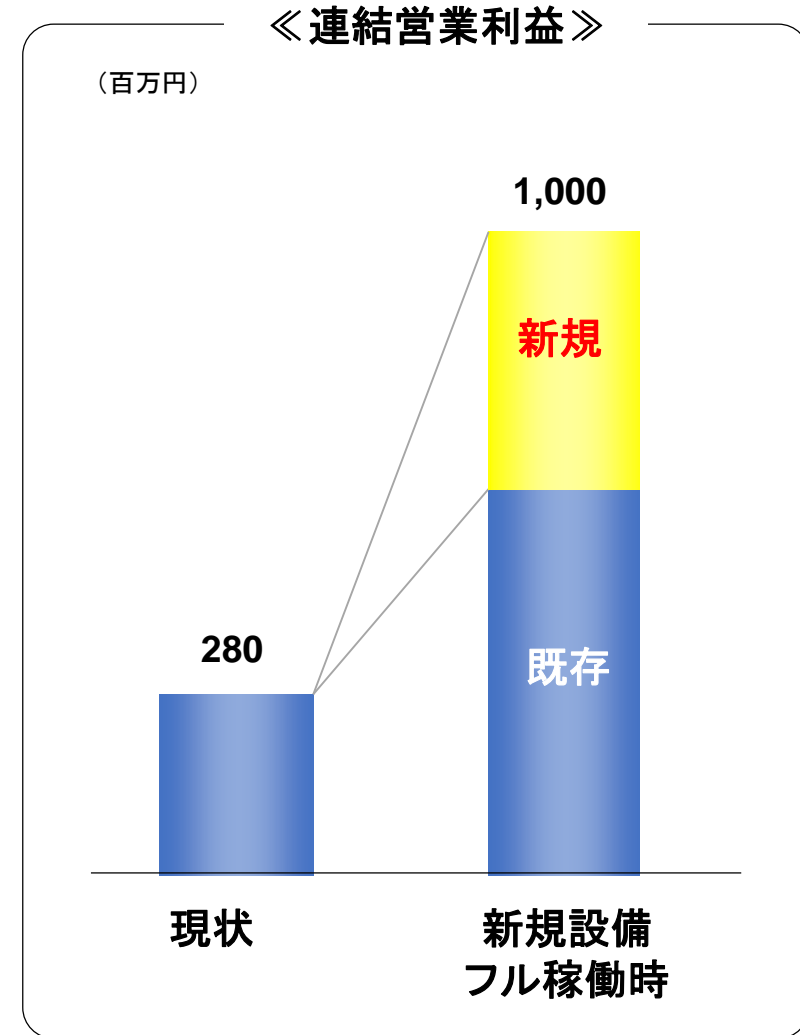
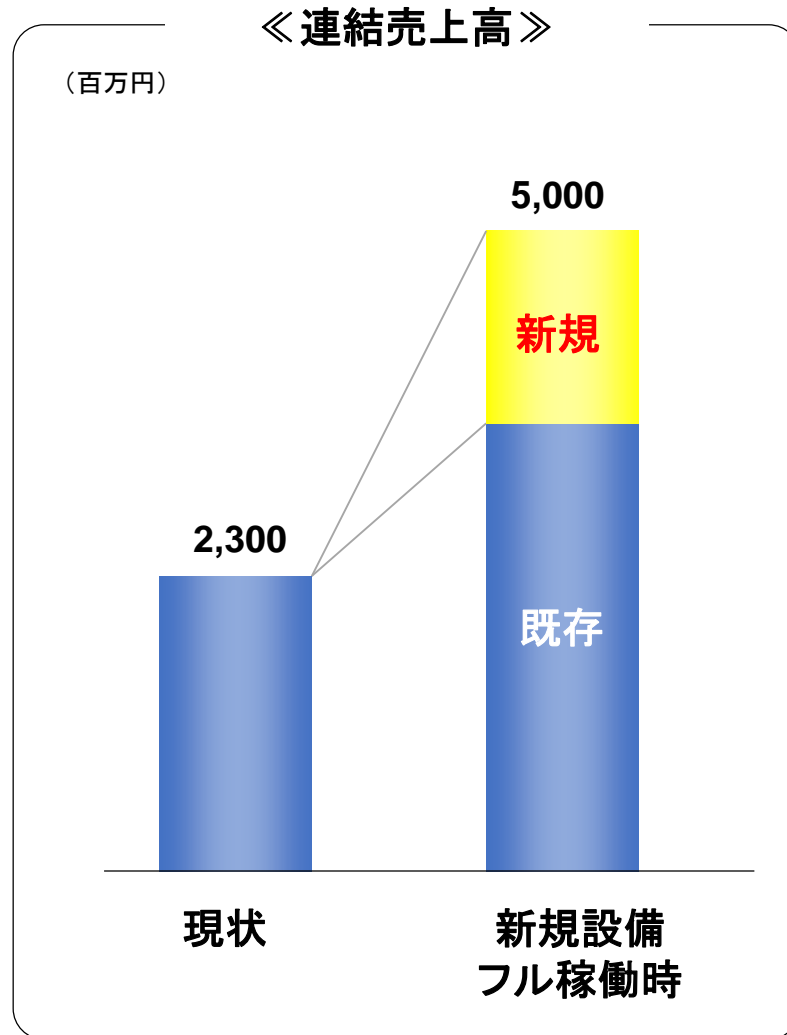
18年6月期において立上げを予定しているナイロン再資源化の新プラントは3,000t./年(売上規模10億程度)を想定。



事業譲渡により参入した漁網を原料としたナイロンリサイクル事業は現状で1億円/年規模の販売実績まで成長しており、設備投資後の顧客基盤を着実に構築

新規設備投資による期待収益

既存事業の安定成長に製鋼副資材事業及びナイロンリサイクル事業の新規事業が加わった際の想定収益。
収益性の高い新規事業により連結売上高50億円(2倍強)、営業利益10億円(4倍弱)の程度の収益を見込む。



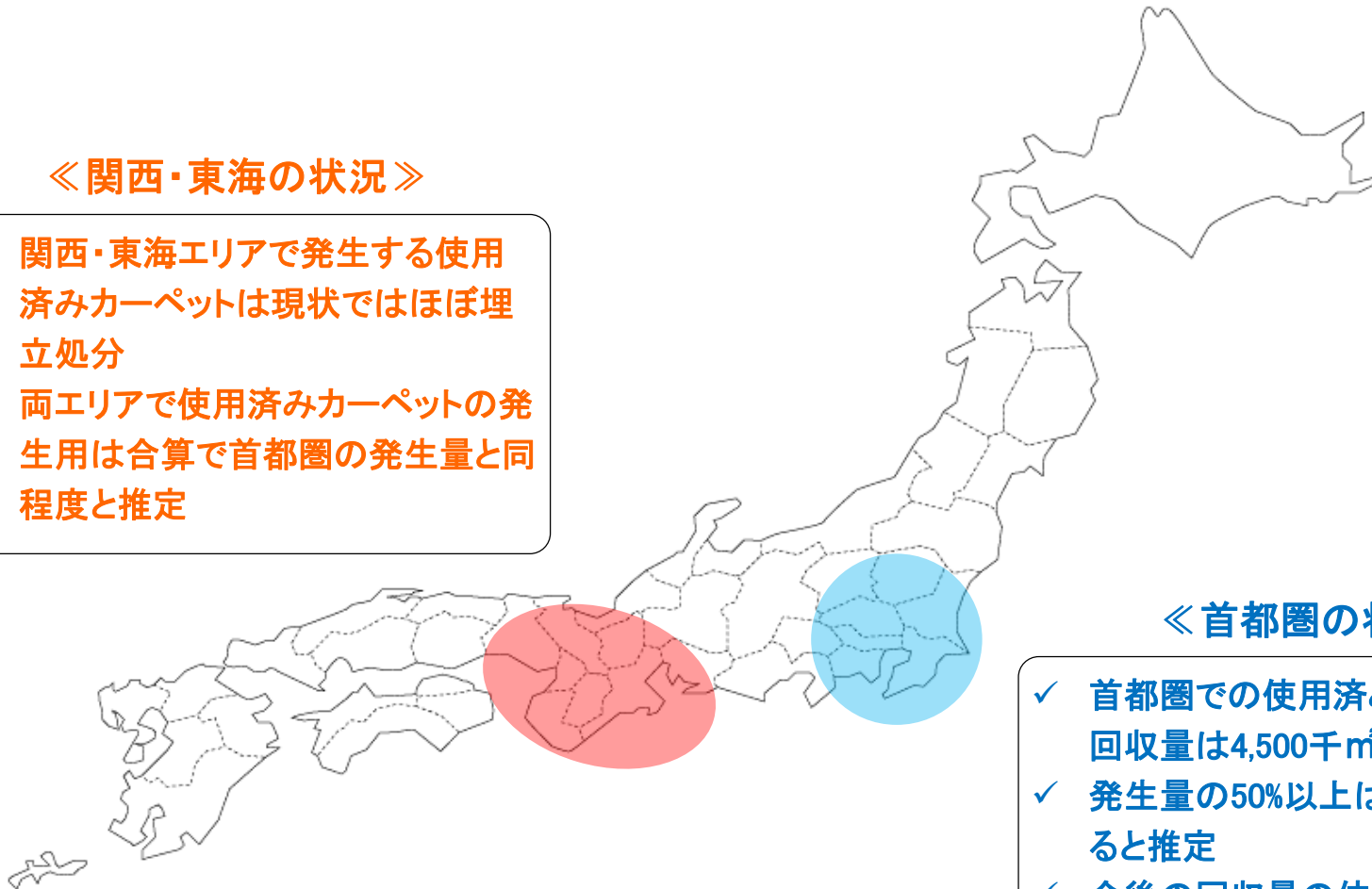
※営業利益は当該事業に直接関係しない費用の増加影響は考慮せず

カーペットタイルリサイクル事業の拡大

首都圏を中心に行っていた使用済みカーペットタイルの回収ネットワークを関西・東海エリアに拡大。
関西・東海エリアでの産業廃棄物処理業界の有力企業との協業により推進。

《 関西・東海の状況 》

- ✓ 関西・東海エリアで発生する使用済みカーペットは現状ではほぼ埋立処分
- ✓ 両エリアで使用済みカーペットの発生量は合算で首都圏の発生量と同程度と推定



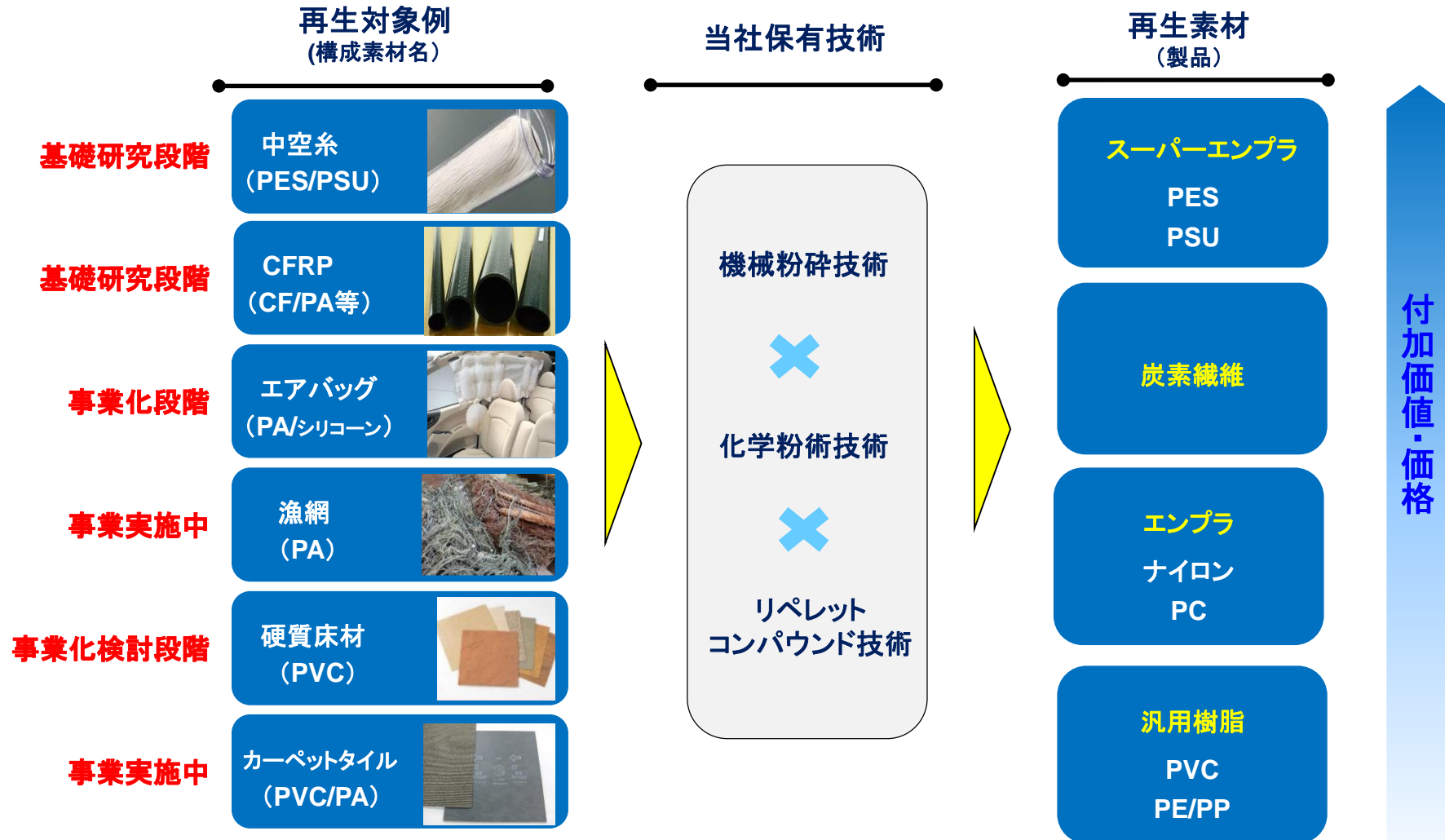
《 首都圏の状況 》

- ✓ 首都圏での使用済みカーペットの回収量は4,500千㎡/年程度
- ✓ 発生量の50%以上はカバーしていると推定
- ✓ 今後の回収量の伸び率は鈍化するものの安定的な回収は維持

新規リサイクル事業の開発

汎用樹脂からスーパーエンプラまで幅広い素材を対象とした研究開発を実施。

外部企業との連携も積極的に進めており、当社の持つ強みと融合させることで“インバースマニュファクチャリング”を推進する。



中期成長ストーリー

既存事業の安定成長に複数の新規事業立上げ・規模拡大が加わることによって持続的な成長の実現を目指す。
競合企業が極めて少ない領域において独自のリサイクルビジネスを創出することでオンリーワン企業としての強みを強化。

| | | 2018年6月期 | 2019年6月期 | 2020年6月期 |
|------------|-------|-------------|----------|----------|
| カーペットリサイクル | 首都圏 | 安定成長 | 安定成長 | 安定成長 |
| | 関西・東海 | 新規立上 | 規模拡大 | 規模拡大 |
| 産廃処理事業 | 産廃処理 | 安定成長 | 安定成長 | 安定成長 |
| | 解体工事 | 施工能力増強 | 施工能力増強 | 安定成長 |
| 製鋼副資材 | 既存原料 | 新規立上 | 規模拡大 | 規模拡大 |
| | 新規原料 | 研究開発/プラント増強 | 新規立上げ | 規模拡大 |
| ナイロンリサイクル | 漁網 | | 安定成長 | 安定成長 |
| | エアバッグ | 研究開発/プラント工事 | 新規立上 | 規模拡大 |
| 開発中新規事業 | 新規① | 研究開発 | プラント工事 | 新規立上 |
| | 新規② | | 研究開発 | プラント工事 |

| | |
|--------|--|
| 会社名 | :リファインバース株式会社 |
| 資本金 | :404,622千円（2017年6月30日現在） |
| 設立 | :2003年12月 |
| 所在地 | :本社 東京都中央区日本橋人形町3-10-1 千葉工場 千葉県八千代市大和田新田672-4 リファインバースイノベーションセンター 千葉県富津市新富52-3 |
| 取締役 | : 越智晶 代表取締役社長 堀内賢一 取締役 最高技術責任者 大谷淳 取締役 経営管理部長 加志村竜彦 取締役 事業開発部長 松村順也 取締役 研究開発部長(リファインマテリアル(株)代表取締役社長) 瀧澤陵 取締役 (株)ジーエムエス代表取締役社長) 鮫島卓 社外取締役 山中尚哉 社外取締役 |
| 従業員 | :126名(グループ全体) |
| グループ企業 | :株式会社ジーエムエス リファインマテリアル株式会社 |

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。